



W 皇大図
911.207
R
0

一 予知... 宗... 宗...

一 出... 飛... 日... 宗...

一 一... 予... 宗...

一 一... 宗...

一 一... 宗...

一 一... 宗...

一 一... 宗...

一 一... 宗...

一 南... 月... 十... 日... 宗...

一 一... 宗...

一 一... 宗...

一 一... 宗...

一 一... 宗...

一 一... 宗...

一 一... 宗...

一 一... 宗...

一 一... 宗...

くまのふを部也

一 南越國ノ何代の

斗子ノ河陽也

清らるる也

又し也

信也

斗子ノ河陽也

斗子ノ河陽也

斗子ノ河陽也

斗子ノ河陽也

斗子ノ河陽也

斗子ノ河陽也

斗子ノ河陽也

斗子ノ河陽也

斗子ノ河陽也

斗子ノ河陽也

一 物の名と

斗子ノ河陽也

斗子ノ河陽也

斗子ノ河陽也

斗子ノ河陽也

一切不嫌也 各
そ申ふ又知と云は
梅原さかしくと同
昔の母といふは

一より有り又 ひと
有り信也 所 送い 右
母と也 有代い 二方 嫌
又より有りい 一より有り
母より有りい 母 有
おふ母也 一より有りい
母より有りい 百物

口うつて 百物 一より
の物いふより おふ嫌
ふかたし 各 一より
二より有りい 母
母より有りい 一より有り
二より有りい 母 有
有りい 母 有

一
也有り けり有り
百物 一より有り
他物 一より有り

二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや

二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや
二つぢりや

まうくさ 借まあひ
おしりまうくさ
西の屋やまけい
まさちとて日おに
とるまうくさ
一白ノ中とて
まのこりせりや
解り 再考
さあまあまの
嫁しといふ

一ぬき 二のさや

向新しとて
二のさや
おしりまうくさ
まのこりせりや
解り 再考
さあまあまの
嫁しといふ

一 あり猶一古新式 付也
約し妻也

一 竹と之のうせと云る
芳い付とやあや馬也
こま田付ちるあや
山向の竹もまるとも
付ちるあや

一 十代集子入のあや
まのあやのあや
十代集子入のあや
川もあやと云ふ

一 友人らとのあや
あまのあや入のあや

一 後善き周のあや
十しと云ふ 後徳のあや
のちと云ふ 後のあや
善き周のあや
周のあや
くしと云ふ

一 源氏のあや
付りよのあや
あやのあや

源氏物語のついでに
白く付し、倉之白く
ヤ、井左衛門の白く
らう、早急
あつ平の白く
い、早急
こ、早急
一、早急
お、早急
九、早急

と、早急
今、早急
少、早急
早、早急

一、早急
中、早急
山、早急
娘、早急
女、早急
何、早急
ま、早急

徳よふりらば
御多事民用行の
くしる世也
子ね云ふありは
くしらば世も
付とて山の日
申すは世も
事世を留めり

一 ありふりらば
世も日ち常
より後とも
くしらば世も
申すは世も

人の年日さるる

一 松百の松と
くしらば世も
申すは世も
事世を留めり
くしらば世も
申すは世も
事世を留めり
くしらば世も
申すは世も
事世を留めり

中の上の字の白
まぐさやと云也

一魚多雜わは又川
せよのまゝの物也

一白多 一方乱 其
一白多 一方乱 其

一白多 一方乱 其
一白多 一方乱 其

婦や又の白の婦也
たノ指今也 其ノ
言う何とも 其ノ
物もそのいふとわ

一白多 一方乱 其

一白多 一方乱 其

又かきけららし
云々けいといふ

三白婦也

一 女 千のりまのりまのり
るるるとを人持也

一 背といふ人おはせ也

むしとて可く不短

又いふ人二の海也

一 父立や持也又たあ

たのりまのりまのりまのり

分七月始す

とや父まをいふも

まのりまのりまのり

二のりまのりまのり

海といふと何れを

物といふといふも

や持はまのりまのり

のりまのり

一 持ち百物まのり也

まのりまのりまのり

まのりまのりまのり

一 此のりまのり也

又七月末分つ月

隆ら物也 耶也

折のちよふ二方いさる
牛をよふも也

一さちよふも也

一さのちよふも也

一さの目 反位也

このちよふも也

一さ ちよふも也

ちよふも也

ちよふも也

ちよふも也

一さ ちよふも也

ちよふも也

ちよふも也

一さ ちよふも也

ちよふも也

一さ ちよふも也

ちよふも也

ちよふも也

詩月 くらきまの月
川のさくらさくらさくら

多の月ぬゆの雪上
まのさくらさくらさくら

春の月 長
あまの月 くらきまの月

あまの月 くらきまの月
あまの月 くらきまの月

あまの月 くらきまの月
あまの月 くらきまの月

あまの月 くらきまの月
あまの月 くらきまの月

あまの月 くらきまの月
あまの月 くらきまの月

あまの月 くらきまの月
あまの月 くらきまの月

あまの月 くらきまの月
あまの月 くらきまの月

あまの月 くらきまの月
あまの月 くらきまの月

あまの月 くらきまの月
あまの月 くらきまの月

一 腹 舟 又 舟 又

腹 舟 又 舟 又
腹 舟 又 舟 又
腹 舟 又 舟 又

腹 舟 又 舟 又
腹 舟 又 舟 又
腹 舟 又 舟 又

腹 舟 又 舟 又
腹 舟 又 舟 又
腹 舟 又 舟 又

一 舟 又 舟 又
舟 又 舟 又
舟 又 舟 又

舟 又 舟 又
舟 又 舟 又
舟 又 舟 又

一 舟 又 舟 又
舟 又 舟 又
舟 又 舟 又

舟 又 舟 又
舟 又 舟 又
舟 又 舟 又

舟 又 舟 又
舟 又 舟 又
舟 又 舟 又

舟 又 舟 又
舟 又 舟 又
舟 又 舟 又

二に
一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

一に
二に
三に
四に
五に
六に
七に
八に
九に
十に

やういふ所あり也

一處あり也

一場のほらニツヤ

場のほらニツヤ

場やニツヤのほら

新しき也

場と夜も事也

るあも事也

にほらと夜も事也

守られ也

あしと云ふ也

二場あり也

一處ニツヤ

一處ニツヤ

一處ニツヤ

一處ニツヤ

一處ニツヤ

一處ニツヤ

一處ニツヤ

一處ニツヤ

一 秋ノ内ノ
つらねあまの
あまのつらね
とあまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね

一 秋ノ内ノ
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね

一 秋ノ内ノ
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね

一 秋ノ内ノ
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね

一 秋ノ内ノ
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね

一 秋ノ内ノ
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね
あまのつらね

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

一色くも〜

根くさくさ
あつちん

こころとくさくさ
まふまふ

内におちる
りりり

るる
根くさくさ

日度ト付
あつちん
こころ
まふまふ
りりり
るる

根くさくさ

あつちん

こころとくさくさ

まふまふ

内におちる

りりり

るる

あつちん
こころ
まふまふ
りりり
るる

父老... 田務おれ

一之書 丹路田幸
付白紙

平向... 之物

三つ... 之書

三つ... 之書

物... 之書

一之書 陰部氏三

白書... 之書

仲... 之書

仲... 之書

一之書 山目

仲... 之書

とくいつとせうきん

しんしんしんしん

しんしんしんしん

しんしんしんしん

しんしんしんしん

しんしんしんしん

一王の儲 有るもの
云々の事と云ふなり
み物と云ふなり
おのれ
おのれ

一務 末と云ふもの

おのれ
おのれ
おのれ

おのれ
おのれ
おのれ

きつゝもや 瑞穂の

まらさけの由也 垣と

鬼りなきらんみ也

垣と 鬼りなきらんみ也

きつゝもや 瑞穂の

やちの如く 西の

かきつゝもや

ふやわと ちの如く

抱つゝもや

一待のちを平のうらむ

一いもと びつゝもや

十七十七 待のちを平のうらむ

一いもと びつゝもや

一いもと びつゝもや

一いもと びつゝもや

一いもと びつゝもや

一いもと びつゝもや

一いもと びつゝもや

一いもと びつゝもや

一いもと びつゝもや

一いもと びつゝもや

一いもと びつゝもや

一 (道) ねと云はるる
 かのりらるる 舞
 まのりらるる
 一 (道) ねと云はるる
 かのりらるる 舞
 まのりらるる
 一 (道) ねと云はるる
 かのりらるる 舞
 まのりらるる

一 (道) ねと云はるる
 かのりらるる 舞
 まのりらるる
 一 (道) ねと云はるる
 かのりらるる 舞
 まのりらるる
 一 (道) ねと云はるる
 かのりらるる 舞
 まのりらるる

井中らるのうらみ
可なりうらみ
由らじし

身あゝ見しを二句
他よりあつたてしを
るはす

一 塩 五ツ出二ツ
たはらうや 物のき

つ子のれんをうらみ
塩よ なるき

たはらうや 物のき
つ子のれんをうらみ
塩よ なるき

いの中らるし
一 五ツ出二ツ

一 五ツ出二ツ
たはらうや 物のき
つ子のれんをうらみ
塩よ なるき

一 五ツ出二ツ
たはらうや 物のき
つ子のれんをうらみ
塩よ なるき

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

一 天照神 乃神也

大勢にふるまへりては
何れも急ぐや此れを
所^レ知^ルは^レ地^ノ性^ノ也
道^ノし^レふ^レ色^ノの^レ性^也
性^ノは^レし^レし^レ知^ル也
一^ノ身^ノを^レ色^ノと^レ言^フ
色^ノは^レ色^ノの^レ性^也
一^ノ身^ノを^レ色^ノと^レ言^フ
色^ノは^レ色^ノの^レ性^也

大勢にふるまへりては
何れも急ぐや此れを
所^レ知^ルは^レ地^ノ性^ノ也
道^ノし^レふ^レ色^ノの^レ性^也
性^ノは^レし^レし^レ知^ル也
一^ノ身^ノを^レ色^ノと^レ言^フ
色^ノは^レ色^ノの^レ性^也
一^ノ身^ノを^レ色^ノと^レ言^フ
色^ノは^レ色^ノの^レ性^也

行あるとくは

尤もなるが

一文とては

一物たり

十とては

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

一物たり

足尾毒の事
朽木也
又毒の事
又毒の事
又毒の事
又毒の事
又毒の事
又毒の事
又毒の事
又毒の事
又毒の事

車
車
車
車
車
車
車
車
車
車

この車
この車
この車
この車
この車
この車
この車
この車
この車
この車

車
車
車
車
車
車
車
車
車
車

車
車
車
車
車
車
車
車
車
車

予此の事一掃り
之の由也

一書にてその細末
香を多しとく
まじりてやと
似と指し香するも

似と指し香するも
一書にてその細末
香を多しとく
まじりてやと
似と指し香するも
一書にてその細末
香を多しとく
まじりてやと
似と指し香するも

一書との香昔の友
とて之の香も

別々の香も
みちの香も
とてやと

一書との香も
向の香も
然れども
まじりてやと
香も

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一ノ下ハ歌デラスルト云ヒルレニシ

一守に 守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

守りて守る守りて守る

神皇正統記

二ノ巻

月と云ふは元来
あまの御子の中
と云ふは元来
と云ふは元来
月と云ふは元来
あまの御子の中
と云ふは元来
と云ふは元来

二ノ巻 神皇正統記

神皇正統記

一文 神皇正統記

神皇正統記
神皇正統記
神皇正統記

神皇正統記
神皇正統記
神皇正統記

くまねをの物にのみ
自多の在れし事と
たりし事とをの事と
や山をの千をの事と
その事と百千をの事
毎百千をの事と
学、百千をの事と
物と、百千をの事と
是の事と百千をの事
る事と百千をの事
物と、百千をの事と
他物と、百千をの事
らと、百千をの事と

くまねの物にのみ
の物と、百千をの事
る事と百千をの事
と、百千をの事と

一火、口、
岸、火、埋、大
岸、火、毎、大、
火、と、火、と、
火、と、火、と、
火、と、火、と、
火、と、火、と、
火、と、火、と、
火、と、火、と、

蜂も初め解さし
百解るるを
ややし 生れぬ
のちりしきりし

人のね 蜂も初め
解さし 解さし
のねらましきりし
そねるはス方也
人のね 蜂も初め
子るし 蜂も初め

わいのつかりとわらうは
みきし 佐善妙の抄
ふんし 名のわらう

新のわらう 抄
新のわらう 抄
新のわらう 抄
新のわらう 抄

解さし 国も解也
名も解の解 国も
の解也

おのいねおのいね
おのいねおのいね

一 花のつらとん 花のつらとん

とや 花のつらとん 花のつらとん

花のつらとん 花のつらとん

花のつらとん 花のつらとん

花のつらとん 花のつらとん

一 天のつらとん 天のつらとん

や 天のつらとん 天のつらとん

天のつらとん 天のつらとん

一 花のつらとん 花のつらとん

花のつらとん 花のつらとん

一 花のつらとん 花のつらとん

花のつらとん 花のつらとん

一 花のつらとん 花のつらとん

きつてしゝの戸
園の戸さゝのまじ
井はつゝの戸

五ノ戸はさるの戸
戸の戸はさるの戸
戸の戸はさるの戸

一廿又
只の世

あや 本懐世
天教の世

らるるの世

やみの世
名の世

たせの世
の世

せの世
の世

の世
の世

はるの世

一梅なるをまゝ入る

大おひ集らるる

大つ由あつる

まや青物も

梅の紅も

一梅も

梅の内

梅の内

梅の内

梅の内

梅の内

梅の内

梅の内

梅の内

梅の内

梅の内

梅の内

梅の内

梅の内

新刊の...
用...
...

一 園中 隠家 栞

...

...

栞 任...
...

...

...

栞 任...
...

...

...

...

...

...

一 田の底 任...
...

...

...

...

...

...

一 田中の村...
...

...

...

...

一 夕一打と云ふは打と
きん太打をいふ也
舟友と云ふは也
居る打を百物と
いふ也又二居る也
一物と云ふは何れ
一物と云ふは也
一打と云ふは也
一打と云ふは也
一打と云ふは也
一打と云ふは也

一 下田ト云ふは

一 渡底 打をいふ也

一 毒也 打をいふ也

一 百物と云ふは也

一 白くは打をいふ也

一 二の打と云ふは也

一 白重打の打をいふ也

一 此の打と云ふは也

一 金打の打をいふ也

一 打と云ふは也

一 金打の打をいふ也

一 志から也

みわらむそそ新造

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

もろの白文林(一) 十日(日) 十日(日) 十日(日)

日(日) 日(日) 日(日) 日(日) 日(日)

日(日) 日(日) 日(日) 日(日) 日(日)

皇月(日) 日(日) 日(日) 日(日) 日(日)

午(日) 日(日) 日(日) 日(日) 日(日)

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

一月廿一日(五) 森下(子) 吉

鹿の園を甲まは
え方の園に竹の地

一 萩 振振 二 方 竹

付 竹 竹 竹 竹

三 竹 竹 竹 竹

四 竹 竹 竹 竹

五 竹 竹 竹 竹

六 竹 竹 竹 竹

一 萩の園 二 竹の地

三 竹の地 四 竹の地

五 竹の地 六 竹の地

七 竹の地 八 竹の地

九 竹の地 十 竹の地

十一 竹の地 十二 竹の地

一 竹の地 二 竹の地

三 竹の地 四 竹の地

五 竹の地 六 竹の地

一 竹の地 二 竹の地

三 竹の地 四 竹の地

五 竹の地 六 竹の地

七 竹の地 八 竹の地

一乃きりしる世何き
とや 一乃きりしる世何き

一草代 挿物 二乃

此乃二乃乃煙と
と中巻也

一苗代 又苗おど

婿也

一下苗 極ゆる二乃

妻也 乃ととう
乃教 らら乃

乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃

一乃抜の辛や乃乃

二乃婿也 乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃

陰の背の屋中の
片断は未だ未だ
推測の二夕也
申法ありし如し
らいつる如也

一 浮流る原 明字成り
只る如又

一 浮流る原 明字成り
只る如又

一 浮流る原 明字成り
只る如又

一 浮流る原 明字成り
只る如又

一 浮流る原 明字成り
只る如又

一 浮流る原 明字成り
只る如又

一 表の背二方極と云
あや付のめしる如也

一 表の背二方極と云
あや付のめしる如也

一 表の背二方極と云
あや付のめしる如也

一 表の背二方極と云
あや付のめしる如也

一 表の背二方極と云
あや付のめしる如也

一 澤 生れ二方
あや付のめしる如也

一 澤 生れ二方
あや付のめしる如也

一 澤 生れ二方
あや付のめしる如也

一 澤 生れ二方
あや付のめしる如也

娘松の心とてまゝに嫁なす
る鼻下つてまゝなせ

一 銭別シテモのり
とてしるすもなせ

一 津田のりめし
とてしるすもなせ

一 生のりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

一 ちのりのり
とてしるすもなせ

何さう後さうと
定し替のしる。い
二カ様也

一 中より下おき

一 草し又おきと出園

一 草し又おきと出園

一 草し又おきと出園

一 草し又おきと出園

一 草し又おきと出園

一 草し又おきと出園

一 草し又おきと出園

一 草し又おきと出園

一 草し又おきと出園

一 子曰 誰か

一 子曰 誰か

一 子曰 誰か

一 子曰 誰か

一 子曰 誰か

一 子曰 誰か

一 子曰 誰か

和歌流し守り息を絶

又行舟し覚好む

一平 聖人 善人 白河 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

一 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

一 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

持家下持ハモテる様と云

一本持本 持家又

是ハ持家下持ハモテる様と云

あゝこゝにハモテる様と云

よゝゝにハモテる様と云

おや

本本本本

何いあるや

一陰ハ持の本の下ト

臨ハ下ト云ハ持の本の下ト

目下ト云ハ持の本の下ト

持ハ下ト云ハ持の本の下ト

下ト云ハ持の本の下ト

モト云ハ持の本の下ト

一巻社

一透 透と百新

一巻社

下ト云ハ持の本の下ト

あゝこゝにハモテる様と云

よゝゝにハモテる様と云

あゝこゝにハモテる様と云

よゝゝにハモテる様と云

一 破る事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

一 之の事ありきなり

